

実際に、試験場でこの問題を見た時にどのように対処するのか、という視点からアプローチします。

最初に手順を確認しておきます。

\* \* \*

< 第 1 段階 >

全体の日本語を読む。内容を踏まえ全体の文章の調子、などの見通しを立てる。  
この段階に次の作業が位置づけられる。

(あまりに大事な) 予備段階作業

日本語の表現で、意味がすんなりと通じない箇所、より具体的に言えば、現代文の試験問題で、「下線部をわかりやすく説明せよ」という設問の下線部を施すことができる箇所をチェックして抜き出す。英訳の際その部分はかなり自由に訳してよい、ということ。

< 第 2 段階 >

型として身につけている表現を適応できる場合には、それを当てはめる。この作業が可能な部分を探る。

< 第 3 段階 >

自分の英文を見直して、全体の調子を整える。

\* \* \*

< 第 1 段階 > と < 第 2 段階 > について補足しておきます。

・ < 第 1 段階 >

現代文との関係ですが、実は < 問題 60 > ( P 2 3 2 ) は、(意識的かどうかはともかく)この年の前年の東大の現代文の一番として出題された問題です。東大ではこの文章の一部に下線部を施しているのですが現代文で自分なりの正解が出せない、つまり、「どうということかわかりやすく説明できない」のに、英訳ができるはずはありません。

京大に限りませんが、「英作文」そして、それと同じことである「英語を話す」ことの本質はまさにここにあると言えるでしょう。京大の英作文のすごさ、そして、それに立ち向かって考える過程での快感のようなものもここから生まれてくることを忘れないください。

・ < 第 2 段階 >

考える対象をできるだけ絞り、試験中に頭を使う箇所を明確にする。これが何よりも重要なことです。ですから、型として決まる部分、より具体的に言えば、京大の過去の問題で処理できる箇所、そういった箇所を与えられた日本語から消去する形のプロセスを踏みます。学習過程で型を身につける意義はこの点につきます。

「規定演技」と「自由演技」に分かれるとするならば、「自由演技」の部分ができるだけ少なくするということです。これがふだんの英語の学習の目的であり、そこが少ない場合は試験場で考える対象が少ないため、当然のこととして、いろいろな原因で点数が高くなります。

同時に、どんな英語の試験でも聞かれること( = 英語の本質 ) は数個にしばられます( P 2 )。1 . 仮定法 2 . 歴史的思考を示す現在完了 3 . 第 4 ( 5 ) 文型 4 . 「こと」と「もの」・・・などのチェックを忘れないようにしましょう。

では、具体的に問題を見ていきましょう。

< 設問 1 >

< 第 1 段階 >

「私」の体験，自分のことから入って，後半は「もの」を中心に展開される。「私 (= 人)」から「もの」へと進めつつ，両者の関係を述べる ( < 第 2 段階 > 第 2 文・3 )。

後半は「なる」の世界 ( P 2 9 5 )

現代文の設問になりそうな箇所

1. 「新しい時」
2. 「木は新品の時が出発点」

< 第 2 段階 >

第 1 文：

1. 「家具と道具」：名詞は冠詞 ( が問われている ) ，ですから，( × ) furnitures ( ) furniture はすぐに見抜けるでしょう。次の状況とほぼ同じです。「まだ使える電気製品や家具」( P 1 9 6 )

2. 「私は・・・います」は，「私は・・・を理想としている」( P 7 6 ) の型を「なるべく」を含んで My ideal is ... の S V C で表現することもできるでしょう。

第 2 文：

1. 「命あるもの」：「もの」「こと」の表現であることは見抜けるでしょう。そのことが，次の「雰囲気」の表現法を見つけることにもつながります。

2. 「雰囲気」：「( 初対面の時の ) 重苦しい雰囲気 (= an awkward atmosphere) 」( 1 1 6 ) の「雰囲気」とは少し違うとわかるので，単語のレベルではなく意味のレベルで置き代えるべきだと気づくでしょう。

3. 「心地よい」：今までに繰り返し問われた S V ( = feel ) C の型で，かつ，“人”ではなく“もの”を S にする型を使えること。これは非常に重要なテクニックでしたね。「いつものあわただしい時間が特に長く感じられる」( P 1 8 6 ) The ... ( =もの ) + feel + particularly long. など多数。

第 3 文：

1. 「最高の状態」：「点」を基本意味とする前置詞 at の使用をまず考えます。

2. 「出発点」：この部分を < 第 1 段階 > で抜き出してあることが重要なことを繰り返しておきましょう。一般に，漢字表現を what ... で表す，ex. 「活動」( P 1 2 0 ) ，という基本姿勢より，where + S V という表現が見えてきますし，そのことによって，「新品の時が出発点」に対する自分の姿勢が少し明確になるはずなのです。

第 4 文

「年月」：時が動くことをつかみ，後の記述「・・・も増していく」を踏まえ，As + S V ，が使える，つまり，「文明が進めばすすむほど・・・」( P 1 7 6 ) と重ねて考えるとわかります。

「・・・も増していく」：名詞はできるだけ避けるという根本姿勢から，形容詞を用いる方向を探ります。それに，重要表現法「なる」を駆使すれば楽になりますね。「なる」については各自が完璧に準備しておくべきで，本書でも各所で学習しました。ですから，好

きに書いてよいところです。先ほど引用した問題( P 1 7 6 )での考え方と同じで、「比較」と「なる」の関係で処理してもよいでしょう。

#### 第5文

「そこ・・・」:「そこ」「こと」の変換と, that の基本訳は「あれ」ではなく「それ」になること, より具体的には<問題18>( P 7 6 )の「そうありたいと思っている」を That is what ... と表現できたことを考えれば良いでしょう。cf. 「ここは・・・小さな村です」<練習問題20>( P 2 7 0 )

#### 補足

出題されてから, それほど年月が経っていませんが, いろいろな学生にこれを教材として用いてきた体験も含め, 注意すべき点を, 土台とすべき基本文を考えながら並べておきます。

#### \* 「素材」

- The desk is made of wood. : of + 「材料」: 「素材」
- Cheese is made from milk. : from + 「原料」  
一般に, from の後は見えない( = 別世界 ) )

#### \* 「木材」 ( × ) woods 「森」 ( ) wood

furniture は当然として, 各自, 不可算名詞のリストの作成をきちんと行うこと( P 2 9 0 )。

#### \* 「独特」 unique to + 名詞, peculiar to + 名詞

#### \* 「雰囲気」 There is something about + 名詞

ex. 「彼には(どことなく)大人の雰囲気がある」 There is something mature about him.

#### \* 「味わい」「美しさ」

形容詞とは, ある対象に対する筆者の価値判断を示す言葉, といったような形容詞のひとつの定義が自分の中にあれば, 堂々と形容詞が使えるところ。

#### \* 「そこが・・・ところ」

ex. 「私のどこが好き」 What do you like about me?

#### 最後に

話は変わりますが, 京大の今年( 2 0 0 6 年 )の問1の英文解釈の問題の内容はあまりに京大的で, だからこそ, 私は好きです。ところで, この英作文の問題を見たときまず私の頭に浮かんだのは, 京大の英文解釈としては少し異質な内容ですが, 「もの( = 家具 ) は歳月の経過とともに魅力が増す。おじいちゃんやおばあちゃんの顔の皺が増えるように・・・」といった内容の文章でした。今年の問題も好きですが, 私はこの文章も好きです。

特に, 京大志望者は, そのことがわかっていた, はず(べき)ですし, そこに使われている表現などを駆使することによって, 自分がほぼ納得できる答案が作成できたはずなのです。

英文解釈の勉強姿勢の見直しを促す意味も込めて, 一言( = 一番大事なことを ) 付け加えました。

#### < 設問 2 >

<第1段階>

設問1と対照的で、「私」を排除した形での西洋史のお話。歴史的思考を表す現在完了をどう駆使するか。<問題57>(P219)で「地中海」が想定されているのだから、「古代ローマ時代」はある程度予想できたもの。

現代文の設問になりそうな箇所

「『昨日』からの付き合い」

<第2段階>

第1文：

1. 「イタリアと・・・」：この箇所については、後で詳しく述べます。

2. 「・・・という印象がある」：「『人間みな同じ』という感想を持つ」<問題32>(P122)

3. 「ある」：「ある」の表現法(P293)

4. 「原産地」：たしかに、SVCで表現すべきところでしょうが、試験というゲームにおいて、「原産地」という名詞を探るのは賢明だとは言えないでしょう。「外国(出身)の友人」(P128)の考え方の線でいくべきではないでしょうか。もっとも、「自分の原産地」「自分が生まれた場所」と具体化すれば、名詞を探すのはそれほど苦ではないかもしれません。ただ、冠詞の問題も含め、名詞表現は(試験場では)できるだけ避けるという根本姿勢を優先させるべきでしょう。

第2文：

この文を見て、文を切る、という極めて大事な作業が必要である、と、まず自分に言い聞かせましょう。

1. 「歴史は浅い」：「AはBがC」の定石<問題13><問題41>(P158)が適応できることはわかります。「・・・(=A)は歴史(=B)が浅い(=C)」です。

ただ、問題点が2つあるでしょう。1. 「・・・」の部分が長いこと 2. 「歴史が浅い」の「浅い」の形容詞の選択、です。特に、1.については最後に触れますが、文を切るにしても、ここに頭を使う時間がないのなら、現在完了 歴史的思考、によって「歴史」の意味を出す、あるいは、「・・・して~立つ」という基本的な表現を用いるべきでしょう。

第3文

ここをどう表現するかを第2文と合わせて考える、ということが大きなポイントになるでしょう。第2,3文とも、考え方は「40年前の父の着物」に対する考え方(P140)と通じるものがあります。

第4文

「つきあい」：最初に抜き出したように、この部分はある程度自由に訳してよいのですが、「つきあう」という言葉(=考え方)は、本書の各所で学習したことです。「イギリス人と付き合う」(P122)など、そのまま使えないこともありません。

補足

\* 「イタリアと・・・トマト」すでに述べたように，ここは練習には最高の教材である。私は，接する学生諸君に，何種類も表現法を考えるように言っている。「言えば」 say 「言葉」という流れで，「・・・という言葉」を用いる場合 (×) the word of・・・ではなく ( ) the word・・・であることを，「という」の重要性とともに改めて確認しておこう ( P 2 9 6 )。

『こころ』の冒頭の<問題 2 0>で考えたこと，特に「思い出す」の表現法 ( P 2 0 1 ) ，「AはB」(春はあけぼの)に対する考え方 ( P 5 9 ) など，いろいろな方面からのアプローチが可能で，自分の英語に対する姿勢を確認することができる。

\* 「・・・のようなもの」：<問題 2 >の「・・・みたいな感じ」などで学習した as if ・ ・ ・の用法，その適応場面を自分なりに確定しておくこと ( P 1 4 )

\* 「彼が死んでから 1 0 年になる」に対して，最低 4 種類の表現法の準備が必要である。

1 . It is [It has been] ten years since he died.

2 . Ten years have passed since he died. ( 「数字」を主語にすることで，「数字」を導入することで説得力を増そうとする，政治(家)的言葉の雰囲気だろう。1 . の表現法を原則とすべき。 )

3 , He died ten years ago,

4 , He has been dead for ten years. ( 「彼は 1 0 年間，あの世にいる」ということ。 )

\* この問題で間違いが集中するのは第 2 文で，無理に関係代名詞を用いて，自分でもよくわからない，意味不明の長い文を書いてしまうことである。日本語にはない関係代名詞を知ってしまった日本のインテリは不幸である，ぐらいに極端に考えておかないと，試験場でのこの間違いをなかなか防げない。要するに，

S V に分けて考える

が基本だということを改めて確認しておきたい。S V が情報の最小単位だからである。

以上